

養老山地で生息が確認されたクマについて

Q1. クマってどんな生き物？

本州に生息するクマはツキノワグマで、冬季（12～3月頃）は冬眠し、冬眠から覚めると山菜などを食べ、6月頃に繁殖期を迎えます。夏は草や木の実や昆虫を探し、秋になると木の実を食べることが多くなります。利用する餌は多様性に富んでおり、その土地にある最も手に入りやすいものを利用しているといっでよいでしょう。行動範囲はこの餌の量によって拡大縮小していると考えられています。

ツキノワグマはすぐれた聴覚、嗅覚をもった動物です。丈夫な養蜂箱を破壊する力を持ち、直立した木にも登ることが出来るすどいツメも持っています。

Q2. どうして養老山地に発信機が装着されたクマがいるの？

三重県紀伊半島のツキノワグマは環境省が公表する哺乳類のレッドリストで絶滅のおそれのある個体群とされており、三重県の条例によって県全域のクマが希少種に指定され、保護の対象とされています。

三重県北部地域では、これまでほとんどクマの目撃がなく捕獲されたこともありませんでしたが、平成27年5月に三重県いなべ市でイノシシ捕獲用の檻に誤って捕獲されました。このように捕獲された鳥獣は放獣することが「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」上基本とされています。そこで三重県が、放獣後にクマがしばらく放獣地点に戻ってこないことを確認するために、発信機を装着し放獣しました。

このクマと、滋賀県多賀町で女性を襲ったクマとの関連が疑われたことから、発信機の電波を受信しクマの位置が付きとめられ、養老山地にクマの生息が確認されました。

《 参 考 》

◎ 三重県・滋賀県・岐阜県境付近のツキノワグマ

岐阜県と接する、三重県北部地域や滋賀県多賀町は、これまでクマの目撃例がほとんどなく、養老山地と同様に、クマがいない地域と言われていました。

ところが、この発信機を付けられたクマによってその生息が明らかとなり、さらに滋賀県多賀町では、別のクマの存在が確認されたこととなります。少ないながらも大垣市等ではクマの目撃情報が以前から報告されており、養老山地でも他のクマがいると考え、対策を考えていく必要があります。

Q3. このクマ、捕獲できないの？

Q3-1 発信機がついているなら捕獲できないの？

発信機が装着されているので、受信機で電波を拾うことで、クマのいる方角や距離がわかります。しかし、カーナビのGPSのようにパソコン等に位置が表示されるわけではなく、動くクマを、複数の受信機を使い無線等で連絡を取り合いながら位置を絞り込むため、安全に捕獲を行えるほど正確には位置が把握できません。これまで3回猟銃による捕獲活動を行いました。クマを目撃することすらできませんでした。

Q3-2 檻なら捕獲できないの？

檻を設置していますが、クマは不規則に移動しており行動が読めず、捕獲には至っていません。これまで蜂蜜を利用し捕獲しようとしてきましたが、クマの行動に併せて柔軟に檻を移動させるのは困難です。また、重い檻を運び込む必要があることや人の往来の多い場所には設置できないため、設置できる場所も限られます。

養老山中に他のクマが生息することを考えると、発信機がついたクマとは別に、子グマが檻に捕獲されて攻撃的になった母グマが周囲に潜む、という危険な事態も想定しなければなりません。

《 参 考 》

◎ 山中での銃による捕獲活動について

山中での銃による捕獲活動は、見通しが悪いため参加するハンターの危険性が高く、また、クマを追い詰めることでクマが民家等に逃げたり、完全に仕留められずクマが狂暴化して二次被害が発生することもあります。しかも、葉の生い茂る季節に行うとその危険性は更に高まります。

Q4. このクマ、危なくない？

ツキノワグマは優れた聴覚・嗅覚を駆使して人との接触を避けて生活しているので、突然に至近距離で出会わなければ、比較的安全な生き物です。餌の多くは植物質で、人を食べる目的で襲うこともありません。

また、女性を襲った場所に落ちていたクマの体毛と、捕獲檻に残っていた血液によりDNA検査をしたところ、女性を襲ったクマは発信機がついたクマではなかったことがわかりました。

《 参 考 》

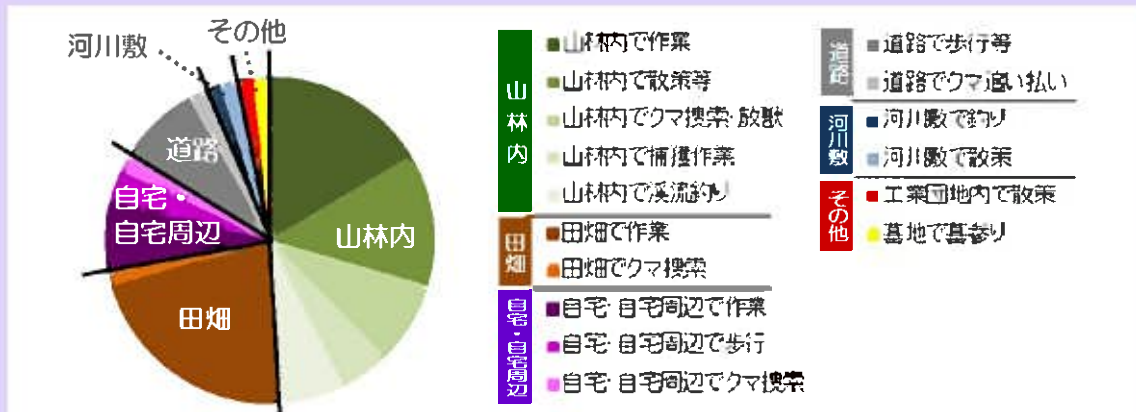
1カ月クマを追跡し続けましたが、このクマによる農業被害や人身被害など実被害は発生せず、住宅地や田畑等に一度も出没しませんでした。

銃による捕獲を行った際も、このクマは人の気配を察して移動し、時に身を隠してやり過ごすなどしているようでした。このクマは、人を避ける一般的なクマと言えそうです。

Q5. クマってどんな時に危ないの？

平成26年度の全国のクマによる人身被害状況によると、その多くは山際、山林内や餌となる木の近くで発生しています。自宅、道路や工業団地などでも人身事故が発生していますが、山際でツキノワグマが潜むことができる環境の中でした。

ツキノワグマが人を攻撃するのは、突然、人と出会って驚いた場合や、母グマが子グマを守るための威嚇の延長である場合がほとんどです。



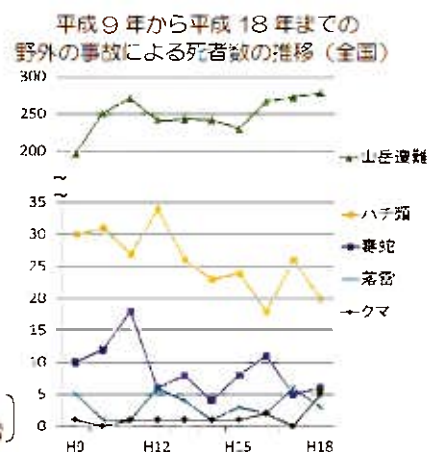
平成26年（全国的なクマ大量出沒年）の人身事故発生状況

- ・事故状況がはっきりとわかった97件について分析したもの。
- ・山林内以外の場所での事故のほとんどは、クマの生息が考えられる山際で発生。
- ・児童・生徒を襲った事例は97件中1件（山際の河川敷を1人で散歩中）。

《 参 考 》

ツキノワグマやヒグマによる人身事故で命を落とす人の数は、ほかの屋外での死因と比べて多くはありません。これらの事故の多くは予防が無かった場合に発生しています。

警察白書及び人口動態統計より作成
 （山岳遭難による死者には行方不明者を含む）
 （クマによる死者にはヒグマによるものを含む）



Q6. このクマ、放っておいていいの？ 捕まえてもいいの？

放獣されたクマは、三重県いなべ市で捕獲されたもので、その後の追跡により、クマは養老山地を歩き来していることがわかりました。捕獲される前から同様に行動していたものと推測され、もともと養老山地に生きていたクマと考えられます。

また、これまでの追跡によると、農業被害や人身被害等を起こしていません。岐阜県内に多く生息する一般的な野生のクマと同様の行動を見せていることから、対応が必要な特殊なクマでは無いと考えられます。

今後、住宅地等に頻繁に出没したり、何かしらの被害を出したり、その恐れのある場合には、有害鳥獣として捕獲することも考えられます。

しかし、現時点では、無理に捕獲を行うことによって人身被害が発生する可能性のほうが、このクマが山林内で人身事故を起こす可能性よりも高いと考えられるため、発信機をつけたクマに限らず、養老山中に住む他のクマも含めて、クマと人が出会わないためにどうするかを考えることが重要です。

Q7. どうしたらクマに出会わなくてすむの？

人身事故の多くは、ツキノワグマが潜むことができる山際や山林内、餌となる木の近くで発生しています。ツキノワグマも人と出会うことを避けようとしています。山際に近づいたり、野山に入る際は、鈴やラジオなどを携行する、複数人で行動するなど、ツキノワグマに人間の存在を知らせましょう。

ツキノワグマが人里に出没する原因は、餌の存在です。ツキノワグマが人里で利用できる餌を減らす工夫をしましょう。



★トタンの巻き付け
果樹の幹に漆を塗りにしてトタンをまくことで、ツキノワグマが樹に登ることを防ぐことができます

★カキやクリの除去
ツキノワグマが匂いにつられて出てきます。実を運めるか、利用しない樹であれば伐採しましょう

★電気柵の設置
果樹園、養蜂場、養魚等はツキノワグマの被害が発生しやすいので、電気柵等で十分に防除しましょう

Q8. 万が一、出会ってしまったらどうしよう？

多くの場合、出会ったクマが逃げていきます。もしクマが逃げない場合、近くに子グマがいるかも知れません。その場合は、走らず、背中を見せずにゆっくりと後退してください。

あまりに近距離でばったり出会った場合は、クマも人も驚いて、落ち着いて行動することはできないと考えられます。そのため、出会った際にも適切な行動が取れるよう、近距離で出会わないようにするために、鈴やラジオを携行したり、人里周辺でのクマの餌を減らす努力をしましょう。

《 参 考 》

◎ 至近距離でクマに出会って攻撃を受けた際の対応について

あなたが、子供か、女性か、男性か、どのような人かによってできる対応は異なります。また、逃げ込める場所があるか、使える持ち物があるかなど出会った時の状況や人慣れした成獣か、木に登った子グマを守る母グマであるかなどクマの状況によっても、効果的な対応は異なります。状況に応じた細かな対応策をあらかじめ覚え、その場で適切に判断して実行できる可能性は低いでしょう。

準備ができず実行できるかどうか分からない「出会ってから」のことに力を注ぐより、「いかにして出会わないか」を考え、被害対策に役立てていただきたいと思います。